

隊長さんの エイズ学会 見聞録 #1

日本エイズ学会学術総会はエイズに関する様々な研究成果が発表される年に一度の集まりです。医学から社会学まで、いろいろな分野の人々が研究成果を発表します。そんなエイズ学会に、SaL+編集部の隊長さんが潜入!! 一体どのような内容だったのでしょうか。PICK UPしてお届けします!



いってきましたよー

PICK UP 1 「多様なHIV陽性者を巡る課題」

「HIV陽性者」と言っても、感染した経路や経緯、性別、年齢等は様々です。薬害による感染、母子感染、性行為での感染や、女性や男性といった性別、身体の自由・不自由など。そして、それぞれに課題があります。例えば、薬害による感染の場合。陽性者へ支援の視点から、「陽性者の自立」と「母親との関係」が語られていました。印象的だったのは「陽性者が自立をするためには家族の支えが必要な時もある。その一方で母親が過保護になればなるほど、子供の社会自立という点からは遠ざかってしまうのではないか。」というお話がありました。同じウイルスだけど、生活やライフスタイルによって抱える課題も見える世界も違う。HIV陽性者の多様性、そして多くの課題を感じました。

PICK UP 2 「パートナーに検査を勧めるべきか」

パートナー検診は簡単に言うとHIV陽性とわかった人が、パートナー（彼氏やセックスをした相手）に伝えて、相手に検査を受けるよう勧める事です。（さらにここで話されていたのは保健所のHIV検査結果の受取時点や病院の初診時にパートナーに伝えるように医師や保健師が勧めていることです。）確かにHIV陽性とわかった人が、過去にセックスをした相手に自分がHIV陽性であることを伝えて検査を受けるように言うことは早期発見という意味でも重要かもしれません。相手の事を考えるのなら、早く伝えてHIV感染しているかどうかを知るほうが良い。ということもいえます。しかし、HIV感染告知を受けた直後は、本人が一番不安や混乱でいっぱいのはず。それなのに検査結果の受取直後や、病院



まとめ

薬害の問題って、MSMとは直接関係ないと思う人もいるかもしれません。でもそんな事はありません。HIVの障害認定は、薬害でHIVに感染した人達の裁判などの努力の結果生まれた制度です。パートナー検診の話は、「HIV陽性者は感染を打ち明けるべき」という考えが前提になっているのですが、果たしてそれでいいのでしょうか。そもそも状況によって言える人／言えない人がいたり、言えるとしても、それを言う／言わない選択は自分でしたいわけだし…。そういう事をひとりひとりが考える事で、「言う方」も「言われる方」もきちんと受けとめられる環境が作られるのではないでしょうか。

>>>TEACH



気になるけど、誰に聞いたらいいかわからない。知りたいけど、どうやって調べたらいいのかわからない。
そんなみんなの疑問に、経験豊富な兄貴（時にはアネキ）が答えるコーナー。

HIV検査について 北区保健福祉センターで聞きました

「久しぶりにHIV検査を受けてみようかな」と営業の合い間、仕事前、休みの日に思いついたら、どこがいい?
堂山に近く、無料、匿名で月～金の午前中に検査が受けられるのが「北区保健福祉センター」。
意外に便利な「北区保健福祉センター」の保健師さんに色々と突っ込んで、お話を聞いてみました!

一どんな人が受けに来られますか?

割と若い方が来られていますよ。もちろん年配の男性も来られますけど、20～30代の方が多い印象です。北区保健福祉センターには、年間約2000人の方が検査を受けにいらっしゃいますので、会話の中で「前に来た事あって～って話が弾むこともあります。

—MSM(男性とセックスする男性)向けにも工夫されていますか?

検査の待合室には、実はいろいろと工夫がしてあるんです。初めて検査を受ける方でもわかりやすいよう壁に番号が貼ってあったり、壁を大きく使って資材を掲示したり、大きなポスターを並べたりしています。

順番を呼ばれるまでの待ち時間に、少しでも性感染症の情報を触れてもらえたなら良いなと思っています。

また、検査会場や結果返しの場など、いろいろなところにMSM向けの資料を並べているんですよ。

一行った時に、ちょっと混んでたりしたら面倒くさくなるんですけど…。

北区保健福祉センターでは、平日の9時半～11時の受付で血液検査を行っていますが、検査開始直後(9時半～10時)と、終了直前(10時半～11時)は少し混むことがあります。もちろん一概には言えませんけど、参考までに覚えておいて良いかもしれませんね。

検査を受けるときに、あらかじめ受け取りの日を決めておくのもいいですよ。

一告知のときってどんな感じなんですか?

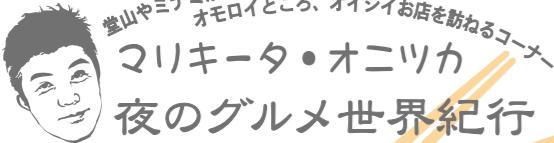
検査結果が陰性か陽性かで対応が変わることはなく、同じ

ように告知しています。もちろん陽性の場合は病院の紹介など細かい違いはありますが、受けられた方自身に結果を確認していただき、その上で疑問や質問などがあれば対応する。そこには陽性も陰性も関係ありません。私たちでは力になりにくくなる内容でしたら、もっと専門的な機関に繋げるお手伝いもさせていただきます。

一相談したくてもゲイのセックスとか、言いにくかったりするんですけど…。

そこはぶっちゃけてしまってください。気にしているのはご自身だけで、こちらは気にしていませんよ。プライベートな話だからこそ、個室を設けて一人ずつ確実に結果をお返しするようにしていますし、専門職と話す良い機会ですから、どんどん積極的に相談してほしいと思います。ガラーンとしているよりも、たくさんの方に利用してもらううが私たちもうれしいですから。

>>>GOURMET



お野菜バル、といえばいいのかしら、この「カーサ・デ・ラ・テンマ」（「天満の家」の意）。元祖日本酒バル肴やつと同じ路地の、路面でなく2階にトントントンと上がりしていくと、バルにてはデカイ、でもちゃんとカウンターのある空間があって、いかにも気のよさそうな若い店長さんがお迎えしてくれます。このカウンタは二つあって、まずは店長自ら手塩に掛けて育てた野菜の数々。シンプルな味付けなれど彼のセンスが光る繊細なタパス類、巷に溢れるスペインバル、イタリアンバルとは一線を画すモノに仕上げています。

がってい◎◎◎。もう一つのウリは、店長さんのキャラクターから滲み出る、何と言えばいいか、最近復活の兆しもある地域の「歌声喫茶」の寄り合い場の雰囲気とでもいうのかしら。週末ともなれば沖縄音楽サークルの若者たちが「ワインほろ酔い気分で三線を爪弾いたり、店長のギター弾き語りが飛び出したりして、まるでキューバの「カーサ・デ・ラ・トローパ」（歌の家）の意）に紛れ込んだみたいな、開放的なコミュニティの匂いが立ち込める、なんともいえず居心地のよい空間に変身なさいます。の店名そのものズバリでございますわね……



>>>TOPIC



今回のテーマは 「エイズ学会で文化研究のシンポジウムが開かれる」

日本エイズ学会学術集会・総会が、2010年11月に東京で開催されました。エイズ学会は基礎・臨床・社会の3つの専門分野から構成されるエイズ研究に特化した学際学会です。そのエイズ学会で、文学や演劇など、一見するとエイズとはあまり関係ないように思われる領域の専門家が集まってエイズを考えようというシンポジウム「HIV感染対策研究における人文学の応用可能性」が開かれました。筆者も参加したこのシンポジウムでは、例え

- ゲイの人々が「コンドームを使った正しいセックス」を「コミュニティのルール」とすることで、コンドームを使わない人々がどのように排除されるのかという研究
- エイズ予防の活動では「理論も大切だが感情も大切だ」という研究
- 舞台作品とエイズとの関係についての研究

などが報告されました。エイズという課題を解決するために、新たな学問分野の人々が研究に参画してきています。基礎や臨床だけではない、様々な立場の人々が関わった今回のシンポジウムは、エイズを巡る状況の変化を象徴した出来事なのかもしれません。

(山田創平)

>>>LIFE



vol.08
HIV感染がわかったとき、まず何を思った?
どんな風に感染を受け入れた?
HIV陽性とわかった後で人生は続していく。
なら少しでもポジティブに!ってことで、
新シリーズ突入!
「HIVの友人がいる人」に
ぶっちゃけ色々聞いてみました!

身近な友人からHIV陽性と打ち明けられた時 何を思いましたか?



モっさん（30代）
HIV+の友人：30人くらいかな…
ゲイ活動歴：10年

仲良しの年下の友達が休みの日に発展場行ったり、ナマで誘われたら断れなかったり…っていう話をよく聞いていて、本人も話の端々で「検査受けないと」と言ってたんだけど、受けないってなってた。そんなある日、「明日検査受けにいくー」と言って、それからしばらく連絡が無かったんだ。わざわざこっちから検査のこと聞くのも変だしあって思ってすぐ連絡はとらなかつたんだけど、しばらく絆ってこっちから連絡してみたんだ。したら電話口で、「やっぱりポジだった」と言われて。その後のまちは拠点病院でお医者さんに見てもらわないとねっていう話をしたんだ。聞かされた時はショックだったな。心のどこかで、自分の本当に身近な人は感染しないって思っていたんだと思う。そんな事あるわけないのに。

みつまさ（40代）
HIV+の友人：10人以上
ゲイ活動歴：20年以上

たしか、80年代後半～90年代前半くらいだったと思う。当時はまだまだ「感染＝死」っていうイメージが強かったですね。「日常生活では感染しない」なんて情報もまだまだあやふやな時代でした。HIVに感染した事を話すにはすごく大変な時代だったと思います。だから「よく言ってくれたなあって思いました。ショックとかよりも、定期的に治療を受けているのか?とか、今住んでいる地域でちゃんと医療が受けられるのか?とか、具体的な事が頭に浮かんでいました。当時、こういう考え方の人そんなに多くなかったと思う。多分HIVについて一通り調べていたからかな。ちくちくニューヨークに行く事もあつたし、HIVについて知識として知っておかないといけないって当時の自分なりに思つたんですね。そうして日本から持つていった知識と、実際現地でのHIV状況を肌で感じた事が、こうしたカミングアウトの場面で活きてきたなって思っています。そしてインターネットも無い時代、事情を知っている友人とちょっとした話の合間にHIVについて話す事はとても良かったなって思っています。時代が進んでも人と人のネットワークは大切だと感じています。



>>>HUMAN

今月の「顔」

vol.43 きよ

毎月表紙を華やかに飾ってくれる
カバーボーイくんの人間像を
ちょっとだけお見せするコーナー

—Safer Sexのイメージについて教えてください。
挿入する時はコンドーム着けるとか、定期的に検査を受けにいくとかな。基本的に必ずゴムつけでやるようにしています。

—

好きなタイプについて教えて下さい。

ん…タイプっていうか、いいなって思う層は同年代～ちょい年上くらいで、男っぽいノリの方だと、親しみというか好感が持てるような気がします。あとは細かい事を気にするよりも、多少おざっぱな人で、何よりも喋って楽しい人だと良いですね。

—SEXについて教えて下さい。

基本的にはネコ。だけど上に乗ってくるくらいの人に対しては振るのも好き!だけど、やるるときより終わった後の方が大事。すぐ寝られたりとか、タバコやらシャワーやら一人で行かれちゃうし、ショボーンってする。終わった後もいつもしゃらしゃらして、ピロートークしたいなって思う。

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—